# 鍋島焼の生産と有田（前編）

色絵菊花連鎖文皿（鍋島様式）
1660～70年代（有田陶磁美術館蔵）

かつて佐賀藩が、将軍家への献上や大名などへの贈答用に、“御道具山”と呼ばれた藩窯で厳重な管理のもとに製作したやきものは、現在“鍋島焼”ないしは、単に“鍋島”などと呼ばれています。かねてより、大川内山（伊万里市）の鍋島藩窯跡で焼かれたことが知られており、近年では近接する日峯社下窯跡の継続的な発掘調査により、初期の鍋島の生産状況も明らかになりつつあります。このように、もっぱら伊万里市の窯場で生産されたため、有田の窯業とは直接関わりがないようにも思えますが、原料には泉山陶石が使用され、有田にあった皿山代官所が管轄していることから、実質的には、有田の窯場の一部として捉えることもできます。しかも、大川内山での継続的な生産自体も、時々の有田で選抜・採用された陶工抜きには存続することは不可能でした。ここでは、こうした鍋島焼と有田の関わりについて、今回から３回に分け、その概要について触れてみたいと思います。

ところで、鍋島の製品スタイルも、時期とともに少しずつ変化しており、特に1670年代頃を境に、中国・景徳鎮の祥瑞風から日本風へと大きく舵を切っています。これは有田の民窯が、“柿右衛門様式”として、たっぷりとした余白を設け非対称の構図を基本とする、日本的な美意識に基づくスタイルを完成させたのと軌を一にします。有田が中国に代わり世界の磁器生産の中心となったことで、日本の上流階級が鍋島に求める格調の高さというものが、中国風から和風に変化したのです。しかし、その後民窯が、びっしりと文様で埋めた対称的な構図が特徴の中国的なスタイルへと転化したのと異なり、鍋島の場合は、その後もひたすら日本的な美の追究に終始しました。

鍋島には、民窯製品にはほぼ認められない、独特なスタイルが採用されています。製品の大半を占める皿類の場合、木盃形と形容される高台の高い器形が特徴で、高台の外側面に櫛目文などの内部を濃みた染付文様を巡らすことも通例です。また、胴部の外側面にも七宝繋ぎや花唐草など、鍋島独自の染付文様が配され、色絵製品の場合は、あらかじめ文様の輪郭に薄い染付線を入れ、その内部を上絵濃みで塗っています。そして、佐賀藩はこうした独特なスタイルを民窯では禁ずることによって、何らの負担もこうむることなく、鍋島の高い付加価値を維持することに成功したのです。

この“鍋島様式”と称されるスタイルは、1650年代後半頃に大川内山で完成しましたが、御道具山やその技術の源流は有田の岩谷川内山で芽生えたものです。

（村上）

色絵流水紅葉散らし文皿（鍋島様式）
1670～1700年代（有田陶磁美術館蔵）

季刊 皿山 No.139 秋 2023
有田町歴史民俗資料館・館報

# 令和５年度 全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会 直前準備情報編　その２

11月に開催される佐賀・有田大会まで、いよいよ残り2か月となりました。今号は直前準備情報編その2として、大会や秀作展、サテライトイベント、特別企画をはじめ、現在の準備状況についてお知らせしたいと思います。

## ○佐賀・有田大会及び秀作展について

**●第30回全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会**

**日程：**令和５年11月９日㈭～ 10日㈮

**場所：**歴史と文化の森公園　焱の博記念堂［有田町］

**●第29回重要無形文化財保持団体秀作展－日本の伝統美と技の世界－**

**日程：**令和５年11月９日㈭～ 26日㈰
※月曜休館

**場所：**佐賀大学美術館［佐賀市］

## ○重要無形文化財保持団体秀作展サテライトイベント

**①有田町内小学校へ出前講座**

**日程：**11月14日㈫

町内の小学４年生以上対象に、学校へ赴いて重要無形文化財の授業と体験を行います。

**②秀作展見学バスツアー**

**日程：**11月17日㈮

有田町公民館事業【生涯学習講座】として、佐賀大学美術館へ赴きます。

**③伊勢型紙しおり作りワークショップ**

**日程：**11月19日㈰

１回目 10:00～　２回目 14:00～

※参加申し込みについては、後日当館HPやSNS等でお知らせします。

## ○特別企画

前回の館報で、有田町と包括連携を結ぶ国立大学法人佐賀大学の学生らによって、今右衛門窯や柿右衛門窯での作陶体験を記録した、ドキュメンタリー風映像を制作していることはお知らせしました。

それとは別に広報活動として、有田町内所在の２団体の会長である14代今泉今右衛門氏と15代酒井田柿右衛門氏に、学生からの率直な疑問を投げかけた「100の質問」の映像がこのほど完成し、すでにネット上で公開しています。生活や仕事をはじめ、普段はなかなか質問しにくい内容も含め、各氏50問ずつの質問をテンポ良くまとめた作品です。ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

**●公開YouTubeチャンネル**

佐賀大学芸術地域デザイン学部学生チャンネル

※YouTube上で、「無形の文化と有田焼」で検索してください。

柿右衛門氏と今右衛門氏

## ○HPとInstagramはじめました

全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会(以下、全重協)を広く周知するため、当館のHPに特設ページを開設いたしました。ここでは、全重協のことはもちろん、加盟16団体についてもそれぞれ紹介していきます。

さらに、佐賀・有田大会に関する情報を随時公開するため、Instagramも開設しました。まだ、開設間もなく情報量は限られていますが、今後大会に向け、各団体のご協力のもと情報や画像を随時追加していく予定です。ぜひ、皆さんもご覧いただきフォロー等をお願いいたします。

ZENJYUKYO_SAGA_ARITA

公式Instagram

## ○今後の予定

現在、各種準備を進めており、10月頃にはポスターやチラシを各所に配布し、ワークショップの具体的な内容や募集についてもお知らせする予定です。秀作展等への来場を促すため、広報活動にも努めます。

# 夏休み子ども向け講座を開催しました

**【第22回　町屋模型作り教室】**

７月27日㈭、「町屋模型作り教室」を開催し、町内小学５・６年生の６名が参加しました。今回でなんと22回にもなるこの講座ですが、今年から日程を大幅に変更しました。当初は８月下旬の連続した２日間の午後に講座を実施し、完成した作品は夏休みの自由研究にしてもらっていましたが、近年は夏休みの短縮や、宿題提出が早まったこと、さらに、保護者の方から「塾などで２日連続の参加は難しい、１日だけでも参加できないか？」といった要望が増えたため、今年から７月に丸一日（９時～ 16時）かけて行うことにしました。

1．有田内山地区を見学
2．建物の写真を見て色塗り
3．細かい切り抜き作業
4．組み立て
5．設計図通りに道路を製作中
6．オリジナルの町並み完成！

模型だけなら１～２時間で製作可能ですが、この講座の目的は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「有田内山地区」について学び、やきものの町独特の歴史や文化を体感した上で、自分オリジナルの「町並み」を考えてほしい、というものです。そのため、どうしても内山地区の見学時間や、建物を複数個製作して町並みを作る時間が必要になります。

長時間の作業となるため、子ども達の集中力が心配でしたが、大人の心配をよそに、子ども達は、昼休み中も自発的に作業を進め、次々に模型を作り上げました。実際見学した町屋を参考にしながらも、川の中にハンバーガーショップの看板を沈めたり、墓と幽霊を忍ばせてゴーストハウスを作ったり、桜の花びらが流れる川を町の中央に配置したりと、個性あふれる町並みが完成しました。楽しみながら町並みを製作した今回の経験が、未来の有田町を担う子ども達の「まちづくり」の原動力へと繋がることを願います。

**【第10回　歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう】**

８月３日㈭の午前中、熱中症が危ぶまれるほどの快晴のもと、「歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう！」を開催し、町内小学校の12名の子ども達が参加しました。やきものの町有田の中を流れる川には、様々な理由により、周辺の窯跡や工房などから流れ込んだ、江戸時代以降の陶片（ベンジャラ）が、無数に散在しています。こうした陶片を、子ども達が自らの力で発見し、その場で学芸員に鑑定してもらうことで、有田ならではの景観の中に秘められた歴史の一端を感じとり、郷土への誇りを持ってもらう企画です。

最初に、有田焼参考館にて基礎知識を学習し、どのような 陶片を探すのかを頭に入れた上で、白川川へと移動。時代が古いほど高得点となるルールのもとで、真剣に陶片探しを楽しみました。陶片は順番に学芸員が鑑定し、今回は、５年生の女の子が総合得点80点で１位を獲得しました。子ども達が見慣れた川が、実は歴史を物語る宝が眠っていた、という驚きがあったこの体験は、貴重な子ども時代の夏を彩る一幕となったことでしょう。毎年大人気の講座で、募集開始２日で定員に達してしまったため、参加できなかった方は、来年ぜひチャレンジしてください。

今回、子ども達が見つけた陶片は、貴重な文化財であるため持ち帰ることはできませんが、見つけた陶片の中から一人１点ずつを選んで、元の形や製作年代等を記した解説シートを後日お届けしています。拾った陶片と解説シートは、資料館で展示公開する予定ですので、その時はぜひ資料館に足を運んでください。

1．館長挨拶
2．１位の子どもの採集陶片

## 博物館実習生がやってきました

近年、当館でインターンシップや研修を希望する問い合わせが増加しています。学校が申し込む場合もあれば、個々の学生が申し込んで来ることもあります。そうした要望にお応えするため、特に博物館実習に対して、昨年12月に「令和５年度博物館実習募集要項」を作成したところ応募があり、７月31日～８月７日まで博物館実習を行いました。

博物館実習とは、博物館において資料の収集、保存、展示などを行う専門の職員＝博物館学芸員となるために必要な資格を取得するために必要な実習です。学芸員の資格は国家資格で、一般的に大学などで必要な単位を修得することで取得しますが、その総仕上げとして、実際の博物館等で技術や知識を学ぶのが、博物館実習です。

今回参加した２人は、ともに長崎国際大学の学生で、出土資料の整理作業や、町内の史跡探訪等に取り組みました。特に「歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう！」に関しては、本番だけでなく準備作業から片付けまで、しっかりと体験してもらいました。もちろんイベント中も、子ども達に対してカードゲームの出題者の役をこなし、大活躍してくれました。

実習生の川ざらい準備作業の様子

これから社会に出て存分に活躍していただきたいと思いますが、最後に、実習生よりコメントを頂いたので、ご紹介させていただきます。

### ●実習生のコメント●

７月31日から、有田町歴史民俗資料館で博物館実習をさせていただいた、長崎国際大学の松村です。実習中は、陶片の水洗い作業、夏休み子ども向け講座、実測、注記、史跡探訪などたくさんのカリキュラムを体験しました。

中でも私が印象に残ったのが、夏休み子ども向け講座「ベンジャラを探そう」というイベントの準備作業です。子どもたちが安全に陶片を拾えるように、草払いやテントの運搬、川の清掃作業を行いました。イベントを開催するうえで事前準備を確実に行うことの大切さを学ぶことができました。

また、当日のイベントでは、子どもたちが夢中になって陶片を探していました。その様子を見て、郷土への誇りを持たせる博物館における教育普及活動の意義を感じることができました。

７月31日から、有田町歴史民俗資料館で実習をさせていただいた長崎国際大学の松波です。実習中は、小学生向けイベントの参加や陶片の水洗い注記･接合作業や実測など、様々なことを経験させていただきました。

その中で一番印象に残っている事が実測です。実測は出土品を図面上に記録する取り組みのことです。この作業は忠実に図面上に書かなければいけないので、集中力と模写する際の正確さ根気強さなど一度に色々な力を使わなければいけないので、今までで一番大変な作業でした。ですが完成した後に達成感を凄く感じました。今回の実習で色々なことを経験し感じたことを、今後の活動で活かしていきたいと思います。

## 文化財の保護活動～佐賀県文化財保護指導委員～

佐賀県では、県内に残る貴重な文化財を保護するため、文化財保護条例に基づいて、地域の方を文化財保護指導委員に任命し、活動をお願いしています。有田町内は４名の方が活躍されていますが、このほど、その１人で、西地区の窯跡を担当していた吉永勝さんが、令和５年３月31日で任期を終了したとの連絡を頂きました。平成８年から27年間という長きにわたって、文化財保護行政にご尽力いただきました。吉永さんの長年の功績を称えると共に、文化財保護指導委員についてご紹介したいと思います。

文化財保護指導委員は、文化財（史跡・名称・天然記念物・埋蔵文化財包蔵地・窯跡など）を定期的に巡回し、盗掘がないか、勝手に開発されていないか、標識や説明板などが役目を果たしているか、自然災害や獣害がないか等を確認し、県に報告します。ほかにも地域の住民に対し、文化財に対して保護意識をもつように助言や啓蒙を行っています。文化財保護指導委員の活動によって、文化財の毀損をいち早く確認し、対策を講じることができるだけでなく、盗掘を抑制する役割も果たしています。委員の皆さんの長年にわたる活動の成果か、佐賀県では平成30年度を最後に、窯跡の盗掘は確認されていません。

文化財を守るためには、行政と地域の皆さんとの協力関係が必要です。その橋渡しを行う文化財保護指導委員の皆さんに改めて御礼申し上げるとともに、官民一丸となって、文化財を未来へ残すために尽力したいと思います。


**季　刊　『皿　山』**

**通巻 139 号（令和５年９月１日）**

**編集・発行　有田町歴史民俗資料館**

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目 4-1

☎ 0955-43-2678　FAX0955-43-4185

URL：http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html